

1. 件名：福島第一原子力発電所におけるDエリアタンク未処理水（Sr 処理水）のALPS 処理継続に係る面談

2. 日時：令和3年3月24日（水）15時10分～15時50分

3. 場所：原子力規制庁 18階会議室

4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

知見主任安全審査官

高木技術参与（テレビ会議システムによる出席）

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所 担当3名（テレビ会議システムによる出席）

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社から、3月18日の面談に続き、2月13日の地震に伴うタンクへの影響に関連し、Dエリアタンクに貯留している未処理水（Sr 処理水）の取扱いについて、主に以下の対策を講じた上で多核種除去設備（ALPS）での処理を継続する旨、資料に基づき説明があった。

➤ 漏えい防止対策

- ✓ 水移送に用いる耐圧ホースの使用期間は、繰り返し使用による破損等の可能性を考慮して、最長3か月とする。
- ✓ 日々の水移送終了後は、水中ポンプ側から空気を圧送し、ホース内の残水を移送してから作業を終了する。

➤ 被ばく低減対策

- ✓ β 線遮蔽のため、必要に応じてゴムマット、 β 線遮蔽スーツ及び β 線遮蔽手袋を使用する。
- ✓ 待機時は低線量エリアへ移動する。なお、現状の当該タンク周辺の空間線量率は0.02mSv/h以下。

➤ 安全対策

- ✓ タンク上部での作業において、落下防止用の親綱や安全带フックはタンクに溶接された手すり等（設計上の耐荷重は120kg以上）に取り付けることとし、当該手すり等に腐食、変形、損傷等の異常がないことを確認してから使用する。
- ✓ 地震等の緊急時には、直ちに移送ポンプを停止し、免震重要棟等の堅固な建物内の安全な場所へ一時避難する。

- 原子力規制庁は、上記説明を受けた内容について確認した。

6. その他

資料：

➤ Dエリアタンク Sr 処理水のALPS処理について